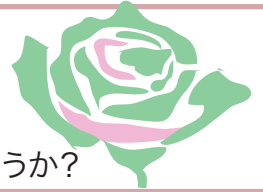


社会福祉法人グリーンローズ

「ことば」の教室
オリブ園
インクル

暑い夏ですね！
お身体に気をつけて下さい。



1学期は楽しく過ごせたでしょうか？

オリブ園の支援について
オリブ園は「ことば」についての支援センターです。昭和42年から幼児期・学童期の子どもたちの「ことば」の問題に取り組んできました。「ことば」の発達に心配をし、オリブ園を訪れた保護者の方々や環境も、オリブ園開設以降、様々な変化があります。その変化について少し記してみたいと思います。

グリーンローズ理事長 後藤 進

1、お父さんの参加が圧倒的に増えたこと

かつては、お父さんの姿はほとんど見られないのが現実でした。卒園して、何年もたってから他の会で出会い、あの子どもさんのお父さんだと知り、びっくりすることがほとんどでした。お母さんが専業主婦が多かったということもあったと思いますが、それにしてもお父さんの影がオリブ園では薄かったのは確かです。今は、共働きが多いせいも、お父さんがたくさん参加してくれています。子どもさんが、学習する場面・生活する場面を家族全体で共有できることは素晴らしいことです。

2、交通事情が悪いのに遠くからよく通ってくれました。

今のように車がほとんどの時代になりましたが、かつては遠くから汽車(かつては汽車と言っていた)に乗って来られる子どもさんとお母さんもけっこうおりました。私(後藤)が担当した子どもさんは、2時間汽車に乗ってやってきておりました。往復4時間です。当時は子どもさんも少なく2時間ほど個別対応をしましたが、最初から最後まで泣きっぱなしで、帰って行くというのを何回も繰り返しました。お母さんの気持ちを考えると、申し訳ない気持ちでいっぱいでした。それでも、少しずつ笑顔が見られやっとお母さんに「笑顔がでましたね。」とお渡しすることが増えていきました。そうした経験がお母さんとその子どもさんにどんな影響を与えたかは不明ですが、よく通ってくれました。

また、遠くから車で、今のように道路が整備されていない状況だったのですが、通ってくれたお母さんもおりました。車で当時片道3時間はかかったと思います。後で、そのお家の場所を知り愕然としたのを覚えております。県南の県境近くの中心道路からはるかに山中に入り、おおよそこの先に人家があるのかと疑われるような場所でした。そこに小さな盆地があり、数軒の家屋がたっておりました。そこだったのです。後で、お父さんとその場所で会った時、「もっと通わせればよかった」と残念そうに話しておりました。今、そのお母さんは当時の車の運転を活かして、その地で福祉関係の運転手をしています。

3、保護者負担の違いがありました。

かつては、オリブ園は「措置」という制度で、休もうと毎日来ようと保護者の方は行政に同じ負担額を納めなければなりませんでした。そのためなのかはあきらかではありませんが、出来るだけ休まないように休まないようにしていたふしがあります。家族としては当然のことかもしれませんが、子どもの顔が赤く、熱がありそうだと検温すると、38度もあったりすることはよくありました。今は「契約」という制度に変わり、お休みした場合は保護者負担は基本的にありません(急な場合は欠席加算がありますが)。子どもさん(本人)と家族にとって「契約」という制度は、素晴らしい制度だとは思いますが。選択権や契約という対等の立場、権利やプライバシーの保護など、多くの大切な面があります。ただ、一方、支援センターの側からみますと、運営が不安定になります。例として熊本地震で、熊本にあるオリブ園と同じ支援センターは、地震のため、たくさんの欠席に悩まされ、大きな収入減に見舞われました。熊本地震は大きな災害でしたが、大きいとはいえませんが、毎年起こるインフルエンザ流行や大雪等での欠席は、運営の不安定につながりかねません。そうした不安が解消されることのような制度を願っています。

4、制度が今も充分とはいえませんが、かつてはもっといきわたってはいませんでした。

制度はこの数十年間に大きく整備されてきました。まだまだと思いますが、オリブ園開設時に比べると大きく前進していると思います。幼稚園・保育園への受け入れ、学校の受け入れなど開設時には比較になりません。幼稚園・保育園の受け入れも少しずつでしたし、学校に行けなかった子どもたちもおりました。その分、家族の必死さがあったと思います。その必死さは制度の貧しさの裏返しだったのかもしれませんが、その前向きの姿勢は、多くの実りも生んだと私(後藤)は思います。後に様々な福祉への働きかけ、学校への働きかけ、社会への働きかけとなりました。そして少しではあっても変わっていく姿を見ることが出来ました。前向きに取りくんでいく姿勢、そのことは今も大切なことと思っております。

裏面もありますよ！

何かありましたら誰にでも連絡・相談

ホームページ <http://www.olive.kodomo-sekai.jp>
E-mail olive@kodomo-sekai.com

「難聴オリブ集う会」が8月5日(日)開催されました。

例年のように「難聴オリブ集う会」が、開催されました。今年初めてのことは、日曜日に開催されたことです。少しでも多くの方々に参加していただきたく、日曜日開催にしました。日曜日開催にしては、参加が多くはなかったのですが、遠方よりの参加してくれた方もおり、社会人7、小学生4、中学生1、幼児1で、その家族を含めるとにぎやかな会となりました。

社会人は22才から36才までの幅がありました。本人が結婚されて、子どもさんを連れてきた方も数家族おりました。

小学生以下の子どもたちは夏祭りを行い、家族の方々は、成人した方々の様々なお話を聞きました。

夏祭り



夏祭りは、金魚すくい、ヨーヨー、わたあめ、すいかわり、くじびきをしました。

1才児、年少、年長、小学1年生～4年生と様々な年齢のお子さんたちが一緒にお祭りを楽しみました。初めて会うお子さん同士もすぐうちとけて、金魚すくいで競争したり、すいかを協力して割ったりする中で、たくさんの笑顔が見られました。

帰る頃には、「また来年も会おうね!」とお子さん同士で約束する声も聞こえ、嬉しく思いました。(文責 内藤夏那)



成人した方々とお話

自己紹介を行った後、主に三つの点でお話してもらいました。

- ①きこえる人とのコミュニケーションをどうやってとってきたか?
- ②転職についてどうだったか?
- ③小さい時にやってきて良かったと思われることは何か?

①小学校2～3年生までは特に何もなく、その後ほとんどの人が他者とのコミュニケーションに悩んだことが出されました。ことばが他の友だちに理解されなかったり、そのことで、後回しにされたりと様々な悩んだことが出されました。部活などで親しい友人の支えなどそれぞれに、のりこえながら、社会人として働いている現在が紹介されました。

また、大事なときは筆談で行ったことが、多くの方から出されました。

②長く働きながら会社の業績の低下のために転職しなければいけなかったことなどが出され、それでも元気に働いている姿が紹介されました。職場の理解がいかに大切であるか、を強く感じさせられました。

③親が自分のために、オリブ園に通わせてくれたことが大きいという意見が出され、私たち職員は身の引き締まる思いでした。日常の生活の多くの部分を、オリブ園通園に割き、自分たちの成長を願った保護者家族について、強い感謝を持っていることが伝わってきました。お母さんたちの子どもたちへの思いが感情となって溢れ、怖いお母さんだったという逸話も出され、会場に楽しい笑顔もあふれました。

(文責 後藤進)